

10.17ワイン研ワイナリーツアー報告

*「ワイン研究会」の第九回例会は、10月17日(金)、秋の甲州路勝沼に遠出してワイナリー見学ツアーという形で開催しました。

日時 平成26年10月17日 8時45分—16時30分

場所 甲州市勝沼ぶどう郷の2ワイナリーほか

参加者 荒木、井垣、伊藤(順)、伊藤(徹)、小川、大島、国友、滝沢、竹内、富平、野村、馬場、村上、山本、横田 以上15名(敬称略)



「バスに早稲田の旗を飾って…」



「バスの中でも真面目にワイキキタイム？」

*集合場所の小平駅・ルネこだいら南側に三々五集まつた参加の皆さん。快晴の好天に「遠足に行く気分」と上機嫌。8時40分小型観光バスで出発、国立府中ICから中央高速を一路勝沼へ。

*荒木さんが準備の缶ビールが車中冷蔵庫を満杯にし、自宅で人数分に小分けされた特製つまみが配られて(有料デス!)、行き帰りの楽しみの準備も万端。相模湖など秋の車窓風景を眺めながら前夜のCS・巨人敗戦の分析などの話題が賑やかに弾みながらも、そこは研究会。「ワイキキタイム番外編」としてこの日の訪問先についての豆知識資料が配られた。

*資料には「勝沼とワイン」、「マンズワイン社」「くらむぼんワイン社」の紹介、「宮沢賢治とクラムボンの由来」、昼食に予定の「ほうとう」の由来などが記されていて、予備知識として皆さんインプット。

*談合坂SAで小憩の後、勝沼ICを出て10時半には午前の見学ワイナリー・マンズワイン(株)勝沼ワイナリーに到着。同社はキッコーマン(株)のグループ会社で勝沼にある大手ワイナリーの一つ。



「マンズワイン正門前で全員記念撮影」

*見学は、出迎えてくれた女性社員の案内で、まずはオリエンテーションルームへ。プロモーションビデオで同社の説明や葡萄の醸造など「ワインの出来るまで」の紹介があった後、場内に林立する発酵タンク群を皮切りにワイン製造工程に沿って製造設備を見学、折から仕込みシーズンとあって工場内にも活気が感じられ、案内係にあれこれと質問も続出、さすがワイン研！



「まずはオリエンテーション」



「女性社員の説明で工場見学」



「窓越しに工場の中を覗いてみました」

*次いで資料展示室に。かつてフランスで使用の葡萄の圧搾機、コルクの樹皮などさまざまなワインに関する資料を見て回った後、ゆっくりと時間をかけて熟成を待つ樽が眠る地下貯蔵庫を見て待望の試飲室に。他の見学者も一緒にテーブルに並べられた多数の試飲ワインを口に含んで「あれが良い、これが良い」と味比べで賑やか。カウンターでは小諸ワイナリー産の同社プレミアムワイン「ソラリスシリーズ」の試飲も。そして気にいったワインを購入するなど铭々に過ごした。

*昼食は同ワイナリーに隣接のバーベキューhaus「万寿園」で。武田家陣中食と銘打つ山梨の郷土料理「カボチャほうとう」を、生ワインジョッキ片手に食した。



「稻酔会馬場さんの音頭で生ワインで乾杯！」



「昼食はカボチャのほうとう」

* 午後の見学は、(株)くらむほんワイナリー。「ワイン造りは農業である」をモットーに創業以来101年、この地でこだわりのあるワイン造りをしている同ワイナリーは、マンズワインなど大手ワイナリーとは対照的な存在。



「くらむほんワイナリー前で記念撮影」

* 同社先代(三代)社長の野澤さんみずからの案内で、築130年、養蚕農家の家屋だったという母屋(資料館・試飲場・売店)や木造の醸造建物に甲州ワインの歴史を感じながら、自社ぶどう畑でぶどう栽培について詳しい説明を受けた。



「母屋全景」

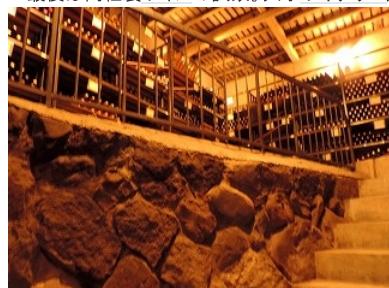


「三代目社長の説明を伺う」

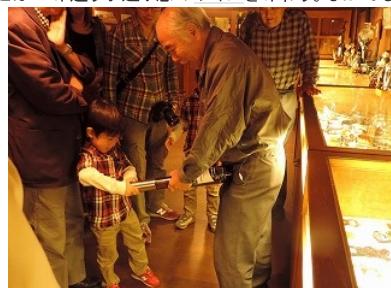
* 一面に広がるぶどう畑が、良いぶどう作りのための工夫の積み重ねであることを知り一同感心。野澤オーナーに熱心な質問が続いた。再びワイナリーに戻ってワインセラーへ。元はぶどうの貯蔵庫だったという薄暗い地下倉庫では、熟成中のワインがフレンチオークの樽に入っている。隣のセラーには愛飲家から預かっている瓶詰ワインが顧客毎の棚にズラリ。孫の写真をラベルにして成人になつたら開栓するのを楽しみに20年近く保管を頼んでいる愛飲家もいて、委託保管ワインの多さにワイナリーと顧客との結びつきの深さに驚く。

* ワイン資料室ではコルク栓の打栓、開栓の実演も。傍らのケースには珍しいオープナーのコレクションが陳列されていて興味深々。

* 最後は同社製ワインの試飲。大手ワイナリー産とは一味違う手造り感のワインを味わう。なかでもスパークリングワインに関心が集まっていた。



「地下のワインセラー」



「子供でも開けられるオープナー実演」



「オープナーコレクションの一部」



「コルクを作る木」



「試飲コーナーでオーナーの説明」



「まずは1！杯」

* お気に入りのワインを手にして両ワイナリーの見学を終え、勝沼ブドウ郷が一望できる「ぶどうの丘」へ立ち寄り小憩。ここでは、お土産のぶどうを買ったりして14時30分、勝沼を後にした。



「ぶどうの丘でくつろぐ」



「ぶどうの丘より勝沼を一望」

* 帰路の車中はビール片手にカラオケタイム。「高原列車はいく」「北国春」など懐メロをみんなで合唱。野村「カラオケの会」会長のリードで同会定番の「また逢う日まで」、荒木さんのリクエストで「おまえに」、山本さんアカペラリードで「遙かな友」などを歌ううちに小平に。16時30分、小平駅前に帰着、解散した。

* とは言え、去り難い思いの有志10名は駅前の居酒屋に集まり、改めて乾杯、ツアーの感想などを肴に語り合った。

* かくして、秋晴れのもとワイン研初の「野外研究」は、楽しい思い出を残して終了しました。

* 次回、11月例会(11月21日・(金) 於カサグランデ)は「ボジョレ・ヌーボー」解禁日の翌日に当たるため、14年産ワインをたっぷりと味わいます。お楽しみに!
「カサグランデ」での例会会費は1,500円+任意のワンコイン寄付。ワインを楽しみたい方、どなたでも歓迎。手ぶらでご参加ください。

準備の都合あり、出来るだけ早目に井垣(090-1196-1471)まで申し込みを !

(文 井垣 写真 荒木・国友)